



助村千代子 議員

## 地域福祉

### 地域毎の計画が必要

答弁：十分検討の価値ある

助村 認知症サポーターを生かした見守り、また小地域（町内会）福祉活動計画を立てるべき。  
町長 十分検討する価値がある。  
助村 地域福祉活動の推進は民間の立場で社会福



▲職場環境の改善を

## 住民自治

### その体制づくりは

答弁：まちづくり支援室で

社協議会が担っているが、行政での担当部署を明確にし、設置すべきである。総務課長 今は課を設けていないので全庁的な取り組みが必要。第5次総合計画で考えていく。  
がん検診の推進の実施  
答弁：課題として考える  
助村 乳がん・子宮がんの無料クーポン券の予算が国において組まれている。町の実施時期は。

健康課長 11月に集団検診をスタートする。病院でも考えている。  
助村 男性特有の前立腺がんは早期発見で100%予防できるので検診を健康課長 今後の課題として、財政も考えながら相談したい。  
〔その他の質問〕  
●3人乗り自転車のレンタル制度

堤久美子 議員



堤 補助金等検討委員会を立ち上げ、補助金の見直しをされたことは、住民自治の出番をつくられた。どのように取り組んでいけるのか。

町長 地域で何か困ることがあるとき、自分たちが何ができるか考えてやってみる。必要な時行政と協力して問題解決する。総務課長 まちづくり支援室でボランティアの総合的な取り扱いをする。まちづくりの支援をする。  
効率よい職場環境を  
答弁：課内の実情による  
堤 高い志を持った若い職員は、現状に満足して  
いるのか。  
総務課長 行財政改革の中、毎年職員が削減され、少ない中で一生懸命事務事業に対応。現状に満足せず前向きに向上心を持って頑張っている。  
堤 意思疎通ができて、仕事が効率化し、プレゼンテーションを高める朝礼を提案する。  
総務課長 課内の実情にあった課内会議がある。



▲乳がん・子宮がんの検診無料クーポン券

## 総合治水

### 都市型水害への対応

答弁：財源との関係がある

丸山 住民の命・財産を守るのは、自治体の第一義的な使命である。  
7・19水害後、河川改修以外の浸水対策をどう進めたのか。



丸山真智子 議員

地域整備課参事 ハード事業は志免城戸地区等で行った。  
流域対策も公共事業で雨水浸透ます等採用した。  
丸山 今回の災害後に着目された福大サッカー場グラウンドを調査したか。  
町長 研究し、勉強する。  
認知症サポーター制度  
答弁：取組みを進める  
丸山 厚労省が平成17年度から、認知症を知り、

地域をつくる10ヶ年キャンペーンを実施している。サポーター制度で地域に理解者を増やせないか。  
町長 高齢化で認知症の数も多くなる。  
理解し、地域で見守る認知症サポーターを増やしたい。安心して住めるまちづくりに努める。  
〔その他の質問〕  
●男女共同参画後期計画  
●プラスチックゴミ処理



▲水害の状況



▲健康課の窓口

## 感染症対策

### 新型コロナウイルスは

答弁：自分の健康は自分で



末藤 省三 議員

末藤 新型コロナウイルスの感染者数が増加し、世界保健機関は感染を確立したとするフェーズ6に引き上げた。今までに流行したことのないウィルスでほとんどの人が免疫を持っていないので、次々

と感染するおそれがあり、これが特徴の一つでもある。特に5歳以下の子供の対応と対策をどう考えているのか。  
総務課長 新型コロナウイルス対策行動計画を策定し、各課で対応するようになっている。  
末藤 妊産婦対策はどのようにし対応するのか。  
健康課長 検診は病院で行っている。医師会等の判断ですが、なるべく妊婦が移動しないような体制づくりが必要と思う。  
末藤 インフルエンザの接種料金8000円は公費負担すべきと思うが。  
健康課長 ワクチンは厚労省関係でわからない。  
末藤 全世帯へマスクを配布したらどうか。  
町長 自分の健康は自分で管理するのが先決ではないかと考えている。